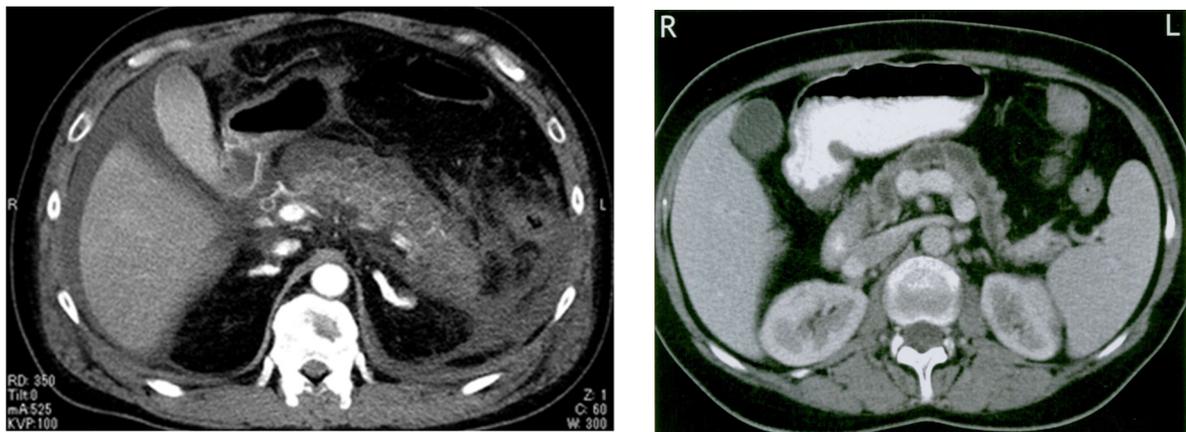


65歳男性、3か月にわたる体重減少、黄疸、食欲不振を主訴に来院。褐色尿と灰白色便を認める。生前健康であり、内服薬はない。40年間の間、1日12本の喫煙歴がある。毎日2杯のコーヒーと1,2杯のお酒を飲んでいる。BMIは28kg/m<sup>2</sup>。身体所見では、眼球結膜に黄疸を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部には膨隆を認め、無痛性の胆嚢腫大を認める。腹水は認めない。

血液所見：赤血球 398 万、Hb 11.9 g/dL、Ht 39%、白血球 7,400、血小板 34 万。血液生化学所見：総蛋白 6.0 g/dL、アルブミン 3.4 g/dL、総ビリルビン 2.7 mg/dL、AST 56 U/L、ALT 48 U/L、 $\gamma$ -GTP 76 U/L (基準 8~50)、尿素窒素 13 mg/dL、クレアチニン 0.4 mg/dL、血糖 84 mg/dL、HbA1c 6.0% (基準 4.6~6.2)、総コレステロール 194 mg/dL、トリグリセリド 78 mg/dL、アミラーゼ 96 IU/L (基準 37~160)、CEA 7.5 ng/mL (基準 5 以下)、CA19-9 107 U/mL (基準 37 以下)。

腹部CT検査を行ったところ以下のような画像が得られた。



1) 診断として適切なものを以下のうちから1つ選べ

- a. 十二指腸乳頭部癌
- b. 膵頭部癌
- c. 膵尾部癌
- d. 総胆管結石
- e. 胆嚢癌

2) 造影CT検査を行ったところ転移巣は描出されなかった。

治療として最も適切なものを以下のうちから1つ選べ

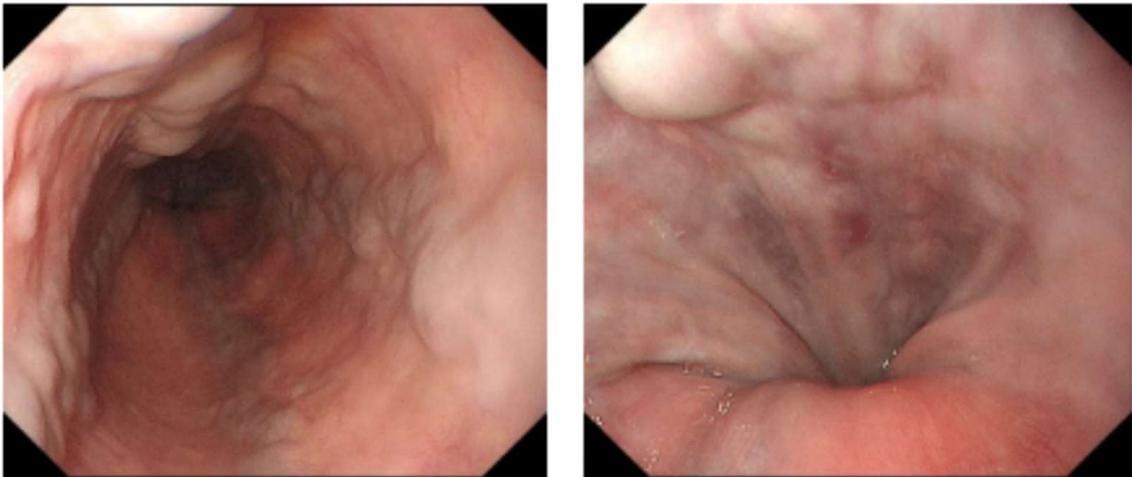
- a. 化学療法
- b. 膵頭十二指腸切除術
- c. 膵臓全摘
- d. 胆嚢摘出術
- e. 内視鏡的乳頭括約筋切開術

48歳男性。腹痛と著明な腹部の膨隆を主訴に来院。腹痛は一日中存在しており、食事前後に痛みに変化はない。生前健康であり、喫煙もしない。1日5～6本の缶ビールを飲む。体温36.6℃、血圧130/80 mmHg。身体検査では、腹部の膨隆と濁音界の移動、びまん性に腹部の圧痛を認める。反跳痛や筋性防御は伴わない。腸管蠕動音は正常。肝臓の腫大を認める。また、乳房の膨らみを認めている。

1)腹腔穿刺にて腹水を認めた。腹水に対する治療として、ループ利尿薬に加え用いるべき薬剤は以下のうちどれか？

- A.アセタゾラミド
- B.ヒドロクロチアジド
- C.メトラゾン
- D.ランソプラゾール
- E.スピロノラクトン

2)上部消化管内視鏡を施行したところ以下のような所見を認めた。



この所見と関連する病態について正しいものをすべて選べ。

- A.食道静脈瘤の内視鏡治療では硬化療法・結紮術を行う
- B.血中アンモニア濃度が上昇する
- C.食道静脈瘤の内視鏡治療では粘膜切除術を行う
- D.嚥下困難を訴えるものが多い
- E.脳症が引き起こされる

55歳女性、嚥下困難を主訴に来院。固形物や水どちらも嚥下困難であり、夜間食物の逆流がある。生前健康であり、特記すべき既往歴や内服薬はない。バイタルは正常である。体重は最近1年間で5kg減少した。腹部は平坦、軟で圧痛を認めない。上部消化管内視鏡検査では食道の拡張、食道内の食物残渣および胃粘膜の軽度萎縮を認める。CTで悪性疾患や腸閉塞の所見は認めなかった。

1)確定診断に用いられる検査として最も適切なものを以下から2つ選べ。

- A.食道造影
- B.24時間pHモニタリング
- C.下部内視鏡検査
- D.食道内圧測定
- E.食道生検

2)この疾患に対して行われる治療として最も適切なものを以下から3つ選べ。

- A.経口内視鏡的筋層切開術(POEM)
- B.Ca拮抗薬
- C.内視鏡的静脈瘤結紮術
- D.内視鏡的バルーン拡張術
- E.内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)